

10

# わたしたちの 県のまちづくり



駿河竹千筋細工の作品 (静岡竹工芸協同組合)

## 1 駿河竹千筋細工を守る静岡市

### (1) 駿河竹千筋細工の広まり

静岡市では、古くから質のよい竹がとれ、いろいろな竹細工が作られていました。竹で笠やまくらなどを作ることが、武士の内職になっていたと言われてい



ます。約200年前、旅の武士、菅沼一我が静岡の宿の息子、清水猪兵衛に細い丸ひごで作る千筋細工の技術を教えました。その後、猪兵衛は、菓子器や虫かごを作

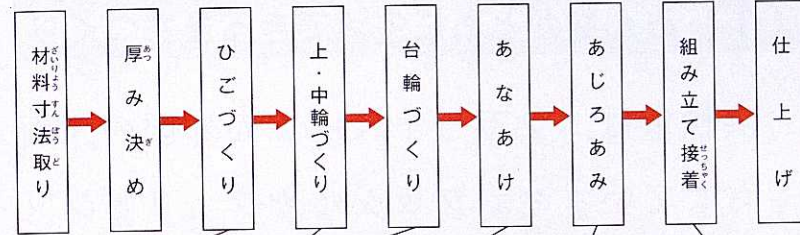
って販売し、千筋細工を世間に広めたと言われています。1873年、ウィーンの万国博覧会に出品し、世界の人々からすばらしさがみとめられました。海外にまで知られた駿河竹千筋細工は、「伝統的工芸品」として国の指定を受けました。

駿河竹千筋細工は、どのようにして、広まったのだろう。



0.8mmの竹ひごで作られている虫かご

### (2) 駿河竹千筋細工ができるまで



細くわたった竹を鉄板のあなに3回通して丸い「ひご」をつくりま

す。

熱した胴乱に、竹をまきつけて曲げま

す。

「ひご」を通すあなを同じ間隔であけま

す。

底の部分をあみま

す。たいへんむずかしく、根気がいります。

輪にあけたあなに、「ひご」を素早くていねいに通して、組み立てます。

### (3) 駿河竹千筋細工のよさを広めるために



#### 竹千筋細工職人 黒田さんの話

げんざい、竹千筋細工の職人は12名ほどです。年々へり続けていますが、親方の元で修行にはげんでいる若い職人もいます。生活様式が変わり、竹せい品がげんざいの生活で使われることが少なくなってきました。竹千筋細工の伝統を守りながら、今の人の生活に合うような新しいデザインのせい品づくりにも挑戦しています。竹千筋細工のよさを生活の中でもっともっと楽しんでもらいたいです。

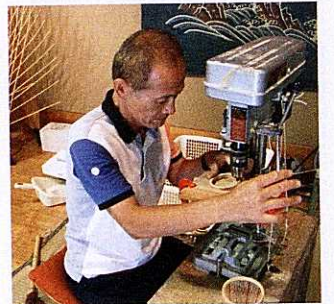


#### 駿府匠宿 インストラクター 八木さん

駿府匠宿で、実さいに竹千筋細工を作ることにより、将来、竹千筋細工の職人として活やくする人が出ると思っています。静岡市には他にも、ひな人形・ひな道具・下駄・漆器・染め物などの伝統工芸があります。静岡市の伝統工芸が学べるので、ぜひおいでください。

竹千筋細工は、どのようにして、作られるのだろう。

竹千筋細工のよさをどのようにして広めようとしているのだろう。



あなあけ作業をする黒田さん



駿府匠宿での体験作品



国際交流がさかんな浜松市は、どのような取り組みをしているのだろう。



浜松市の位置

浜松市の外国人の人数  
(2020年7月1日時点)

国	人数(人)
ブラジル	9611
フィリピン	4077
ベトナム	3278
中国	2533
ペルー	1693
韓国	1133
インドネシア	1045
その他	2341

総数：25711人(89カ国等)  
(HICEホームページより)

交流活動の様子  
フェスタ・サンバ



HICE(ハイス)  
浜松市やいろいろな人たちと協力して国際交流やみんなが住みよいまちづくりを進めているそしきです。

② 国際交流のさかんな地域～浜松市～

(1) みんながともに生活できるまちづくり

浜松市は、2万5千人以上の外国の人がくらしています。ブラジルやフィリピン、ベトナムなど、いろいろな国の人があります。

外国人が地域の中でともに生活していきけるまちにするために、どのような取り組みをしているのか調べてみることにしました。



日本語教室の様子



日本語とポルトガル語で書かれたお知らせ

浜松国際交流協会(HICE)の人の話

わたしたちは、外国の人も活やくできるように、様々な取り組みをしています。日本語教室や交流活動などの取り組みもそのひとつです。

また、日本人が外国の文化や考え方をすることも大切です。おたがいに相手のことを知ることでわかり合えると思います。

すべての人が、えがおでくらせるまち、ずっと住みたいと思えるまちをつくりたいと考えています。



(2) 「音楽」でつながる国際交流

浜松市は、昔から「音楽のまち」づくりに取り組んでいます。「音楽」を通して、どのように世界の人々と交流しているのか調べてみました。



調べてみると、「音楽」を通して交流するだけでなく、日本の文化を体験するような活動もいっしょに行われていることに気付きました。また、そこには浜松市に住む人々がボランティアで参加していることがわかりました。

浜松市は、「音楽」を通して、どのような交流活動をしているのだろう。

(写真提供：浜松市文化振興財団)



交流活動をするボランティア

浜松市文化振興財団の人の話

それぞれのイベントには、多くの市民ボランティアの人たちが協力してくれています。浜松市のみんでイベントを成功させ、世界の人たちと「音楽」を通してつながろうとしています。また、大人だけでなく、子どもたち同士でつながる場もついています。「音楽」という共通の言葉で交流する活動を通して、おたがいの文化のちがいに気付き、尊重していくことができるような人を育てていきたいと思っています。



焼津市はどのような取り組みをしているのかな。浜松市と比べながら調べてみよう。





三島市の中心部を流れる源兵衛川は、どうして多くの地域の人々に親しまれているのだろう。



三島市の位置

<源兵衛川で見られる生き物>



カワセミ



ゲンジボタル



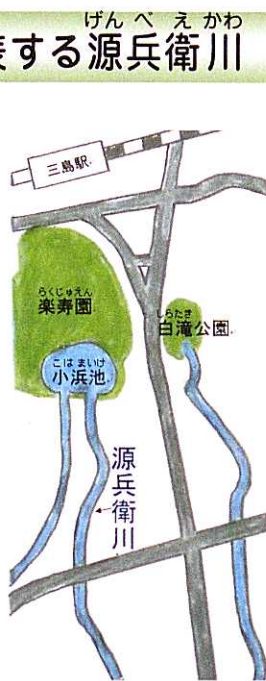
どうしてこんなに汚れてしまったのだろう。

### ③ 水辺を生かしたまちづくりを進める三島市



#### (1) 「水の都・三島」を代表する源兵衛川

三島市は、富士山のふもとにある市で、富士山から流れる大量のわき水によって、豊かな水があふれるまちです。中でも、源兵衛川は、地域の人々や子どもたちにとっても親しまれている川です。



三島駅近くの川の流れ



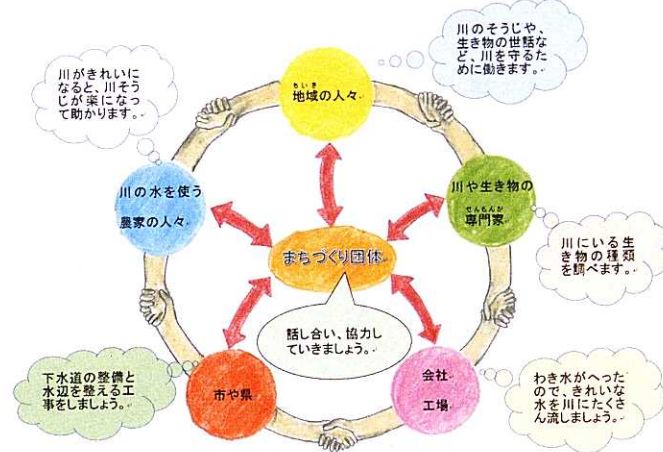
1980年ごろの源兵衛川



水がない小浜池

<写真提供> NPO 法人グランドワーク三島, 三島市ふるさとガイドの会, 三島市役所

#### (2) きれいな源兵衛川を取りもどすために



#### (3) いつまでもきれいな水があるまちに



清掃活動



ホタルがまう水辺



整備された水辺



ボランティアガイド

きれいな源兵衛川を取りもどすために、これまでになんかことが行われてきたのだろう。



さまざまな立場の人の協力があって、きれいな川がよみがえったんだね。

#### 地域ボランティアの方の話



富士山からの恵みであるこの三島の水は、地域の「宝物」です。これからもずっと大切にしていきたいし、未来の子ども達にも大切にしたいです。自分が生まれ育った場所だから、この川を見にきた人が、「きれいだな。」「三島っていいところだな。」と思ってほしいです。そのためには、川にゴミを出さずゴミがあれば拾って、川をきれいにする。自分達ができることを考え、一人ひとりが行動することを心がけていけば、自然は守っていけるとおもいます。



やいづ ひとびと あい こいすみやくも  
**焼津の海と人々を愛した「小泉八雲」**

小泉八雲は、明治時代の有名な小説家であり英文学者です。本名はラフカディオ・ハーンといたしました。書きあらわした本は、『知られざる日本のおもかげ』『怪談』など多くあります。小学校のみなさんには、『耳なし芳一』や『雪女』が読みやすいでしょう。

1890年に日本に来た八雲は、松江中学の英語教師や東京大学・早稲田大学などの講師をしていました。その間に日本の古い伝説や文化を外国に知らせました。

八雲は、焼津の海が気に入り、東京に住んでいたころに6回もの夏を焼津ですごしています。



Lafcadio Hearn

②手紙の中の地蔵が泣いた絵



くまのじんじゃ  
⑤熊野神社



かいそうじ  
⑦海蔵寺



こうしんじなみよ  
③光心寺波除け地蔵



きょうねんじ  
④教念寺



やいづじんじゃ  
⑥焼津神社



ひ  
⑨八雲の碑



しんかわ きねんひ  
⑧新川橋の記念碑



山口乙吉



乙吉だるま



焼津では、魚商人の山口乙吉さんの家の2階を借りていました。乙吉さんの家から当目や和田の海岸に泳ぎに行ったり、小川の海蔵寺をはじめとするお寺や神社をたずねたりして、のんびりすごしていたそうです。

八雲は、焼津の海岸を見て自分の生まれこきょうのギリシアを思い出しています。また、乙吉さんをはじめとする焼津の人たちのそばくさや気質が好きになり、何回も来たのです。焼津にちなんだ八雲の作品には、『焼津にて』『海のほとり』『漂流』『乙吉だるま』など、すぐれたものがあります。みなさんも一度読んでみましょう。そして、焼津小泉八雲記念館も、ぜひ、たずねてみましょう。



だいいごふくりゅうまる  
死のはいをあびた「第五福龍丸」

1954年3月1日朝早く、太平洋赤道海域のビキニ島から160キロはなれたところで、焼津の漁船第五福龍丸はマグロをとっていました。とつぜん、海面が光りかがやき、大きな音がしました。しばらくすると、空から白いはいのようなもの（後に、「死のはい」とよばれた）がふってきて船につもりました。次の日から、23人の乗組員全員が、頭痛やはきけにおそわれ、体調をくずしてしまいました。2週間後、焼津港に帰ったときは、ひふがただれたり、かみの毛がぬけたりした人がいました。全員がすぐに病院に入りました。けんさのけっか、放射能による病気とわ



東京都立第五福龍丸展示館内の「第五福龍丸」



すいばく ばくはつ ばくしん ぐんき  
水爆ブラボー爆発（爆心から80キロ、アメリカ軍機からさつえい）

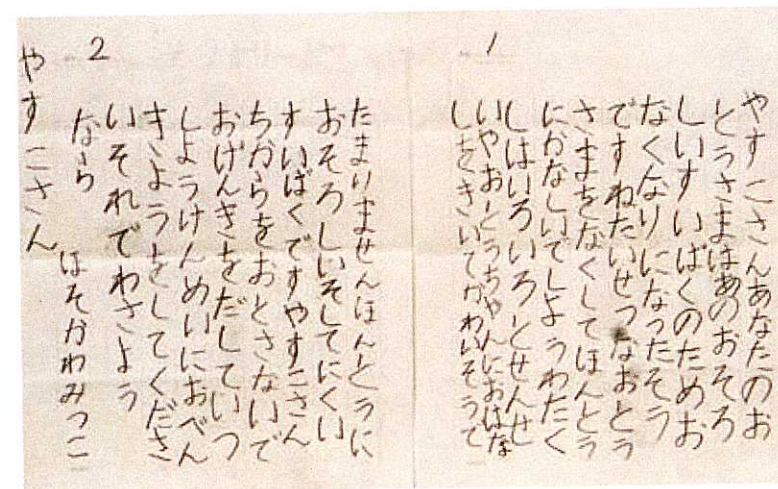
かりました。

アメリカの水爆実験による放射能をあびたことが原因でした。

とれた魚からも放射能が見つかり、日本中がさわぎとなりました

この放射能が原因で、無線長の久保山愛吉さんが、とうとい命を失いました。久保山さんは「原水爆の被害者は、わたしを最後にしてほしい」という言葉を残しています。

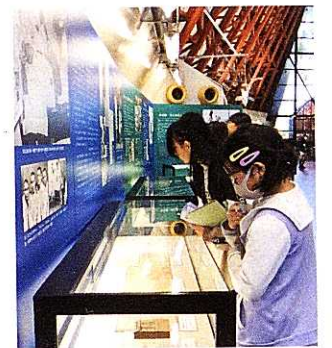
そのころのことを知っている焼津の人たちは、今でも原水爆のおそろしさをおぼえています。そして、世界中から核兵器がなくなることを心から願っています。



久保山愛吉さんの死去の知らせを受けて自宅にとどいた手紙



「第五福龍丸」のほぞんを呼びかけるポスター



第五福龍丸展示館を見学する小学生



焼津歴史民俗資料館内の第五福龍丸コーナー



焼津市の年表（この年表は、6年生の学習でも使います。）

時代	くにかが できるまで	ふん 古墳 時代	あすか 飛鳥 時代	なら 奈良時代	へいあん 平安時代	かまくら 鎌倉時代	むろ まち 室町時代	あづちちもやま 安土桃山 時代
～年前	六〇〇〇年前ごろ	一五〇〇年前ごろ	一四〇〇年前ごろ	一三〇〇年前ごろ	一一〇〇年前ごろ	八一〇年前ごろ	五〇〇年前ごろ	四〇〇年前ごろ

・徳川家康をまつる宗高権現がつくられた。（1616年）

・大井川の水があふれて、下流の方はほとんど川となった。（1604年）

・このころの和田湊は、大井川上流の木材を江戸（今の東京）へ送る港として使われていたといわれている。

・池谷清右衛門が、山内一豊から代官に任命された。

・徳川家康が当目山で武田勢と戦った。（1580年）

・武田信玄が花沢城を攻め落とした。（1570年）

・武田信玄が、徳川家康に大井川をさかいに領地を分け合うことを申し入れる。（1568年）

・大井川が大洪水をおこし、輪中にまもられた藤守郷以外の多くの村が水没した。

・伊勢新九郎（北条早雲）が石脇城に住んだといわれている。

・長谷川正宣（法永長者）が、会下の島（小川）に林叟院をたてた。のちに、坂本へ移した。

・方ノ上（東益津）に城ができたといわれている。

・法永長者の先祖が大和国（今の奈良県）から移り住んで、大きな屋敷を構えたといわれている。

・このころ、官道（今の国道）は、初倉―前島―藤枝―岡部―宇津ノ谷を通っていた。

・空海が香集寺（虚空蔵産山）を建てたと伝えられている。（815年）

・藤守大井八幡宮、吉永八幡宮がつくられたと伝えられている。

・万葉集という本に、つぎの歌がある。

「焼津辺に わが行きしかば 駿河なる 阿倍の市道に 逢いし児らはも」

・行基が法華寺を建てたと伝えられている。

・藤守地区に糸里田がつくられた。

・免沢9号古墳で石の壁に線がかいたイノシシの絵が見つかった。

・焼津中学校体育館付近（宮の腰遺跡）でそのころの家の様子がわかるあとがほりだされている。

・西小川（小深田遺跡）で百けんをこす住居のあとが見つかった。

・高草山のふもとでこのころつかっていた黒曜石の矢じりが見つかった。

・藤守の近くに古代人が住み始めた。



免沢古墳のかべにかいてある絵



石脇城本丸跡（大日堂）

時代	え江	ど戸	時	代
～年前	三〇〇年前ごろ	二〇〇年前ごろ	一六〇年前ごろ	一五〇年前ごろ

・田沼街道がつくられた。

・このころから城之腰、新屋の海運業がさかんとなった。

・堀川（今の黒石川）が田子の橋から城之腰までほられ90年後、新屋からほりつがれた。

・このころからかつお節が作られた。

・新田開発が進み、上新田や高新田という地名がつけられた。

・田中藩が派手な行を敷き、海岸の防備や漁村の船の取り立てを行なった。（1642年）

・中国船が駿河湾に漂着して掛川藩が吉永村の海岸を警備した。

・城之腰、鯛ヶ島村（このころ320〜330けんの漁師や商人の家があったという）のうらに堀川（今の黒石川）があり、そこから、小舟で沖にとどまっている船に荷物を運んだ。

・このころの焼津湊には、大小の運ばん船28せき、かつお船25せきがあったといわれている。

・黒石川と小石川のあう川口を船だまりとして、漁をした。

・大きなかつお船（八ちようろ）で伊豆のおきや遠州灘の方まで、漁に出かけた。

・小泉八雲が書いた「漂流」の主人公甚助が乗った船が、伊勢沖で遭難した。

・安政の大地震がおき、小川村では266けんのうち、92けんがこわれ、海岸がもりあがった。（1854年）

・高草山で、みかんやお茶づくりがさかんになった。

・大井川に不二見橋（後の富士見橋）ができた。（1890年）

・東海道線ができた。焼津村ができた。（1889年）

・台風で多くの家がこわれ、船が流された。（1888年）

・郵便の配達が始まった。

・大井川に有料の橋ができた。（1874年）



復元された八丁櫓

時代	めい明	じ治
年	7	22
～年前	一四〇年前	一一〇年前

・氷で魚を冷やして運ぶ方法が広がった。（1907年）

・焼津町ができた。（人口 10472人）（1901年）

・小泉八雲が焼津を訪れた。（1897年）

・大井川に不二見橋（後の富士見橋）ができた。（1890年）

・東海道線ができた。焼津村ができた。（1889年）

・台風で多くの家がこわれ、船が流された。（1888年）

・郵便の配達が始まった。

・大井川に有料の橋ができた。（1874年）







## 焼津市社会科地域教材研究委員

研究委員長	近藤 和人	焼津東小学校 校長
副委員長	池田 純也	学校教育課 課長
副委員長	飯塚 善久	焼津西小学校 校長
副委員長	浅賀 貞春	豊田小学校 校長
副委員長	諸星 雅一	大井川西小学校 校長
副委員長	八木 均	大井川東小学校 教頭
指導委員	寺尾 正幸	学校教育課主席指導主事
指導委員	多々良 博之	学校教育課主席指導主事
指導委員	鈴木 泉	学校教育課主席指導主事
指導委員	吉永 範子	学校教育課指導主事
指導委員	山崎 健史	学校教育課指導主事
指導委員	望月 明子	学校教育課指導主事
指導委員	中山 清志	学校教育課指導主事
研究推進委員	渥美 鑑司	黒石小学校 主幹教諭
研究推進委員	麻布 克哉	焼津西小学校 主幹教諭
研究推進委員	増田 奈美子	焼津東小学校 教諭
研究推進委員	近藤 聖広	和田小学校 教諭
協力委員 (イラスト挿絵)	水野 瑞穂	焼津西小学校 教諭
協力委員	福井 秀和	小川中学校 教諭
研究委員	赤堀 宏光	焼津東小学校 教諭
研究委員	佐藤 綾子	焼津南小学校 教諭
研究委員	佐竹 悠	豊田小学校 教諭
研究委員	青木 義人	小川小学校 教諭
研究委員	渡邊 英昭	東益津小学校 教諭
研究委員	瀧浪 菜央	大富小学校 教諭
研究委員	伊藤 秀男	和田小学校 教諭
研究委員	花輪 恭代	港小学校 教諭
研究委員	増田 哲也	黒石小学校 教諭
研究委員	長崎 一彦	大井川東小学校 教諭
研究委員	永井 邦佳	大井川西小学校 教諭
研究委員	杉原しおり	大井川南小学校 教諭

## あとがき

「わたしたちのまち やいづ」は、みなさんが社会科の学習をするとき、わたしたちが住んでいる焼津市について進んで調べ、そのようすをよく知ってほしいという願いをこめて作りました。焼津市内の先生方が、多くの皆様のご協力をいただきながら、いろいろと調べ、写真をとったり、文章を書いたりしてできあがった手作りの本です。

わたしたちの焼津市が今のようにするには、長い年月をかけ、たくさんの人々の努力と協力を積み重ねてきました。このようにしてつくられてきたまちを、わたしたちも住みやすい美しいまちにしていかなければなりません。わたしたち一人一人が、何を考え、何をするのがよいのか、この本を使って、ぜひ、みんなで話し合ってみましょう。

令和3年3月

焼津市社会科地域教材研究委員長 近藤 和人

### わたしたちのまち やいづ

昭和55年度版 昭和55年3月20日発行  
 昭和58年度版 昭和58年3月20日発行  
 昭和61年度版 昭和61年3月20日発行  
 平成元年度版 平成元年3月31日発行  
 平成4年度版 平成4年3月20日発行  
 平成8年度版 平成8年3月20日発行  
 平成14年度版 平成14年3月20日発行  
 平成18年度版 平成18年3月20日発行  
 平成22年度版 平成22年3月20日発行  
 平成26年度版 平成26年3月20日発行  
 平成26年度版 平成30年3月20日改訂  
 令和3年度版 令和3年3月20日発行

編集 焼津市社会科地域教材研究委員会  
 発行 焼津市教育委員会  
 印刷所 松本印刷株式会社



